

アレルギーに

個人から世の中へ

アレルギーとの向き合い方

近年発症者数が増加しているアレルギー。アレルギーについての資格と講座を設けている一般社団法人日本環境保健機構事務理事の高尾和宏さんと一般社団法人日本アレルギーら関係の代表理事の山本聡子さんにアレルギーの基本情報やアレルギー患者との付き合い方について取材した。

アレルギーとは

私たちは、毎日5000個以上の多くのウイルスや細菌を吸い込みますが、免疫の働きによってアレルギーの発症を抑制することが可能です。しかし、この免疫機能が過剰反応してしまうと、アレルギーを引き起こします。

現在、日本人の2人に1人がアレルギー疾患を抱えていると言われています。つまり約6000万人がアレルギーを持っているということです。種類別に見てみると、アレルギー患者のうち約40%が花粉症、約13%がアトピー、約5%が喘息を患っています。食物アレルギーは、これまでに成長するにつれて改善する人が多いという特徴がありました。今までは大人になってから食物アレルギーになる人が増加しています。

炎、花粉症、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、そして、食物アレルギーこの6つです。

(山本さん)

アレルギーを発症する原因として環境は関係するののか

環境は大いに関係します。例えば、スギ花粉症はスギ花粉を吸い込むことで症状を発症します。食物アレルギーを発症する環境は定まっています。よく食物アレルギーなら「食べなければいい」と言われますが、例えば牛乳アレルギーの人が家族の中にいて、誰かが牛乳をこぼして、触れてしまっただけで、アレルギーの症状が出てしまいます。このように食物アレルギーは食べて発症するだけでなく触れることでも発症してしまうので、環境はアレルギー発症に多いに関係します。

私たちは最初に設立しましたが、アレルギー関連の資格も作ってみたいと考えて、環境アレルギーアドバイザーやカビ・ダニ診断士の資格を設けました。

私たちがアレルギーの啓発をしたいと思い、以上の資格を設けました。例えば、アレルギーを持っている人は、自分から勉強しようと思わないと思います。ですが、我々は一般的にアレルギーやシックハウスなどに興味のない人たちに向けて、協力したり、アレルギー患者の方に配慮するきっかけとなるような資格を設けました。

現在環境アレルギーアドバイザーを取得している人は12,000人、